

マニユライフ・
円ハイブリッド債券インカム・
ファンド (3ヵ月決算型/年1回決算型)
追加型投信 / 内外 / 債券

月次レポート

基準日：2024年3月29日

3月
金利は上昇、クレジット・
スプレッドの縮小は継続

3

March

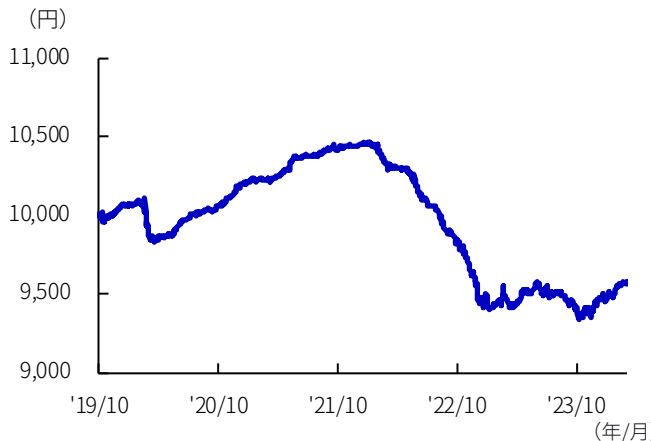
当月の
ハイライト

マニライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド (年1回決算型)

期間別騰落率

1 ヵ月	0.24%
1年	1.32%
設定来	-4.33%

設定来の基準価額 (分配金込み) の推移



円ハイブリッド債券インカム・マザーファンドの最終利回り

最終利回り	2.23%
-------	-------

※基準価額 (分配金込み) は、信託報酬等 (11頁をご覧ください) 控除後の値です。
 ※基準価額 (分配金込み) は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
 ※ファンドの騰落率は基準価額 (分配金込み) をもとに算出しています。基準価額 (分配金込み) は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
 ※最終利回りはマザーファンドの数値を記載しています。償還日または繰上償還日を考慮して計算しています。

当月の
運用動向



債券運用部長
長藤徹志

マーケット

金利は上昇、クレジット・スプレッドは縮小傾向

- 日本の新発10年国債利回りは、日銀がマイナス金利政策の解除やYCC (イールドカーブ・コントロール) の撤廃を決定する中、前月末の+0.71%から当月末は+0.73%へと上昇しました。
- 円建ハイブリッド債券市場では、クレジット・スプレッドは概ね縮小傾向で推移し、特に楽天グループ、損害保険ジャパンが縮小しました。また、三菱UFJフィナンシャル・グループがAT1債を発行し、底堅い需要が集まりました。

当ファンド

クレジット・スプレッドの縮小等がプラス寄与

- 当月のパフォーマンスは、クレジット・スプレッドの縮小等がプラス寄与しました。個別銘柄では楽天グループやパナソニックホールディングスの保有がプラス要因となりました。
- 円ハイブリッド債券インカム・マザーファンドでは、高いキャッシュ比率とCDS (クレジット・デフォルト・スワップ) 取引を活用したヘッジポジションを継続し、ボラティリティ (価格変動性) の高い銘柄の比率を引き下げる等、保守的な対応を継続しました。

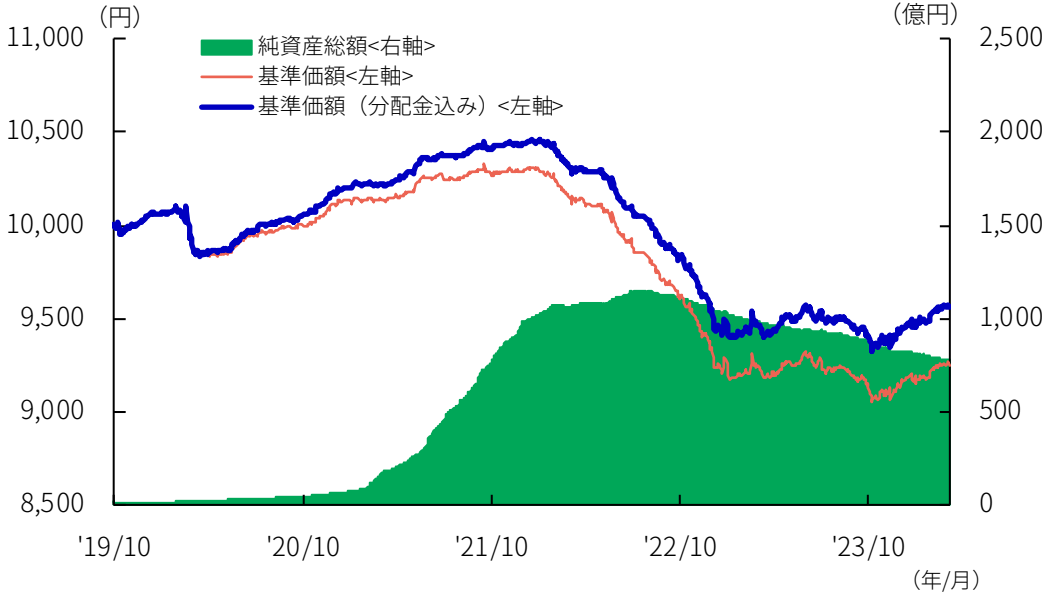
※当資料に記載された見解・見直し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
 ※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
 ※個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

マニライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド (3ヵ月決算型)

基準日
2024年3月29日

運用実績 - Performance

01. 設定来の基準価額および純資産総額の推移



01. 設定来の基準価額および純資産総額の推移
 ※基準価額、基準価額 (分配金込み) は、信託報酬等 (11頁をご覧ください) 控除後の値です。
 ※基準価額 (分配金込み) は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

02. 期間別騰落率

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
騰落率	0.24%	1.27%	1.23%	1.31%	-6.40%	-4.38%

02. 期間別騰落率
 ※ファンドの騰落率は基準価額 (分配金込み) をもとに算出しています。基準価額 (分配金込み) は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

03. ファンドの現況

基準価額	9,254円 (前月末比+22円)
純資産総額	778.6億円

05. 基準価額の月間騰落額の要因分解

債券	インカム	11円
要因	キャピタル等	16円
信託報酬		-5円
分配金		0円
その他費用		0円
合計 (月間騰落額)		22円

04. 資産別構成比

組入資産	比率
円ハイブリッド債券インカム・マザーファンド	100.1%
現預金等	-0.1%
合計	100.0%

04. 資産別構成比
 ※構成比は純資産総額に対する比率です。
 ※計理処理の仕組み上、「現預金等」の数値がマイナスになることがあります。

06. 分配実績 (1万口当たり、税引き前)

設定来合計	320円					
決算期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期
	2022年10月	2023年1月	2023年4月	2023年7月	2023年10月	2024年1月
分配金	20円	20円	20円	20円	20円	20円

05. 基準価額の月間騰落額の要因分解
 ※数値は、前月作成基準日から当月作成基準日までの基準価額の騰落額を、当社が一定の条件の基に要因分解したものです。また、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
 ※「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※「キャピタル等」とは、債券売買損益および金利変動などの影響による保有債券の評価損益等です。

06. 分配実績 (1万口当たり、税引き前)
 ※分配実績は、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆または保証するものではありません。分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。

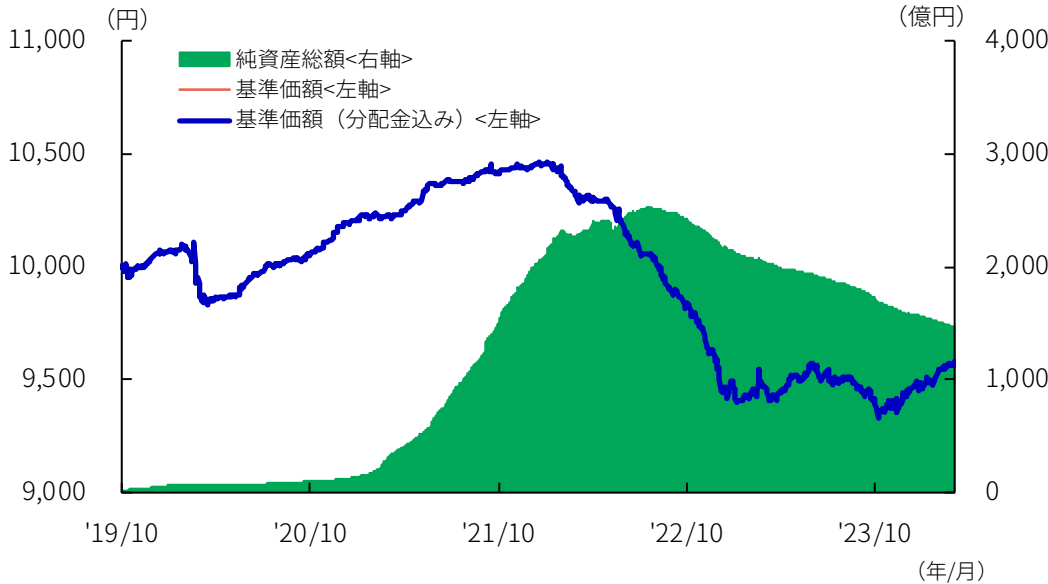
※上記実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。最終頁の『ご留意いただきたい事項』を必ずご確認ください。

マニライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド (年1回決算型)

基準日
2024年3月29日

運用実績 - Performance

01. 設定来の基準価額および純資産総額の推移



01. 設定来の基準価額および純資産総額の推移
 ※基準価額、基準価額(分配金込み)は、信託報酬等(11頁をご覧ください)控除後の値です。
 ※基準価額(分配金込み)は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

02. 期間別騰落率

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
騰落率	0.24%	1.28%	1.24%	1.32%	-6.40%	-4.33%

02. 期間別騰落率
 ※ファンドの騰落率は基準価額(分配金込み)をもとに算出しています。基準価額(分配金込み)は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

03. ファンドの現況

基準価額	9,567円 (前月末比+23円)
純資産総額	1,468.4億円

05. 基準価額の月間騰落額の要因分解

債券	インカム	11円
要因	キャピタル等	17円
信託報酬		-5円
分配金		0円
その他費用		0円
合計 (月間騰落額)		23円

04. 資産別構成比

組入資産	比率
円ハイブリッド債券インカム・マザーファンド	100.3%
現預金等	-0.3%
合計	100.0%

04. 資産別構成比
 ※構成比は純資産総額に対する比率です。
 ※計理処理の仕組み上、「現預金等」の数値がマイナスになることがあります。

06. 分配実績 (1万口当たり、税引き前)

設定来合計	0円					
決算期	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
	2020年10月	2021年10月	2022年10月	2023年10月	2024年10月	2025年10月
分配金	0円	0円	0円	0円	-	-

05. 基準価額の月間騰落額の要因分解
 ※数値は、前月作成基準日から当月作成基準日までの基準価額の騰落額を、当社が一定の条件の基に要因分解したものです。また、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
 ※「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※「キャピタル等」とは、債券売買損益および金利変動などの影響による保有債券の評価損益等です。

06. 分配実績 (1万口当たり、税引き前)
 ※分配実績は、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆または保証するものではありません。分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。

※上記実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。最終頁の『ご留意いただきたい事項』を必ずご確認ください。

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

基準日
2024年3月29日

ポートフォリオの状況 - Portfolio

当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。

01. ポートフォリオ特性

	特性値
最終利回り	2.23%
ロールダウン効果 (推計値)	0.96%
直接利回り	1.45%
平均クーポン	1.35%
残存年数	6.2年
修正デュレーション	3.8年
平均格付け	A
銘柄数	66

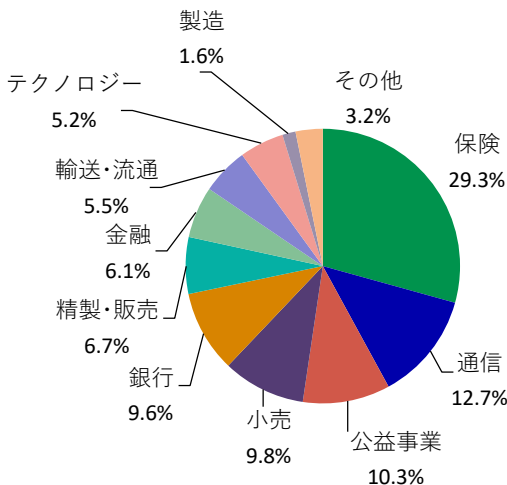
02. 資産別構成比

	比率
円建ハイブリッド債券	83.4%
円建普通社債	6.7%
現預金等	9.9%
合計	100.0%

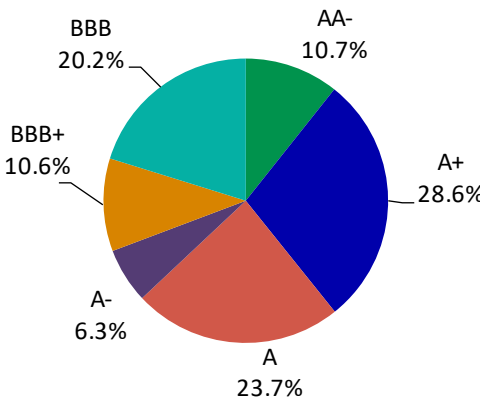
<デリバティブ取引>

国債先物・金利スワップ	-18.3%
CDS	17.8%

03. 業種別構成比



04. 格付別構成比



05. 組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	種別	格付け	クーポン	繰上償還日	償還日	組入比率
1	ENEOS ホールディングス	精製・販売	劣後債	A	1.310%	2036/06/15	2081/06/15	6.0%
2	かんぼ生命保険	保険	劣後債	A+	1.050%	2031/01/28	2051/01/28	5.8%
3	日本生命保険	保険	劣後債	AA-	0.970%	2031/05/11	2051/05/11	5.1%
4	ソフトバンク グループ	通信	劣後債	BBB	3.000%	2026/02/04	2056/02/04	5.0%
5	パナソニック ホールディングス	テクノロジー	劣後債	BBB+	1.000%	2031/10/14	2081/10/14	4.7%
6	明治安田生命保険	保険	劣後債	A+	0.880%	2031/08/02	2051/08/02	4.5%
7	日本航空	輸送・流通	劣後債	BBB+	1.600%	2028/10/12	2058/10/11	4.3%
8	第一生命 ホールディングス	保険	劣後債	A	1.124%	2031/03/17	永久債	3.6%
9	イオン	小売	劣後債	BBB	1.740%	2030/12/02	2050/12/02	3.4%
10	楽天グループ	小売	劣後債	BBB	3.000%	2030/11/04	2060/11/04	3.0%

01.ポートフォリオ特性
 ※特性値(平均格付けを除く)はマザーファンドの数値を記載しています。平均格付けは債券現物部分について計算しています。
 ※最終利回り、修正デュレーションおよび残存年数については、償還日または繰上償還日を考慮して計算しています。
 ※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与しており、平均格付けはこれらを加重平均して算出したものです。
 ※平均格付けは当ファンドおよび当マザーファンドに係る信用格付けではありません。
 ※ロールダウン効果(推計値)は、1年後に発生しうる債券のキャピタルゲインであり、イールドカーブの形状が1年後も変化しないとの仮定のもとに当社が算出しています。将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
 数値は、主要な円ハイブリッド債券から当社が推計した業種別イールドカーブを用いて、マザーファンド保有銘柄のキャピタルゲインを推計し、合計したものです。

02.資産別構成比
 ※構成比は純資産総額に対する比率です。
 ※国債先物・金利スワップの数字がマイナスの場合は、国債先物の売建てと、変動金利受け取り・固定金利支払いの金利スワップ取引の合計を示しています。
 ※CDS(クレジット・デフォルト・スワップ)にはMarkit iTraxx Japan指数等を含みます。
 ※CDSの数字がプラスの場合はプロテクションの買いを示しています。
 ※デリバティブ取引はヘッジ目的に限ります。

03.業種別および格付別構成比
 ※構成比は債券現物部分について計算しています。
 ※数値を四捨五入しているため合計値が100%にならないことがあります。
 ※業種名はブルームバーグ債券分類システムの業種区分に準じて分類していますが、一部当社の判断に基づいて分類することがあります。
 ※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与したものです。

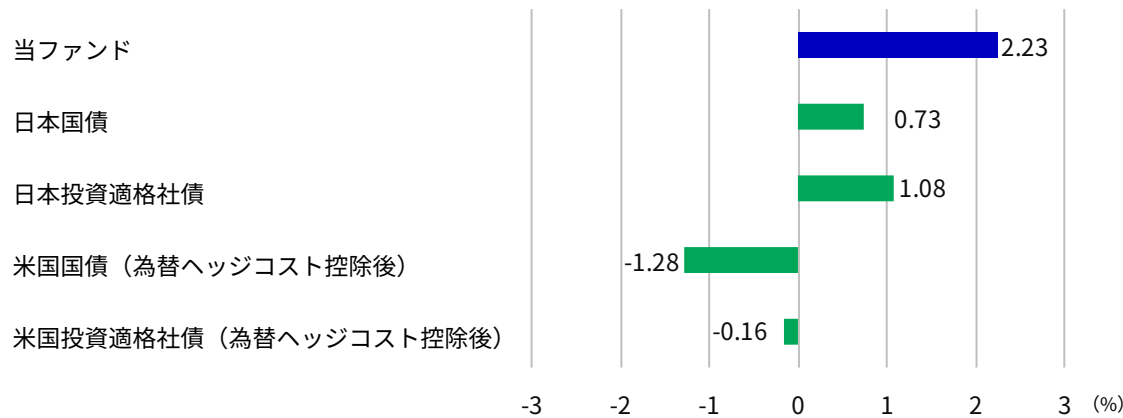
05.組入上位10銘柄
 ※業種名はブルームバーグ債券分類システムの業種区分に準じて分類していますが、一部当社の判断に基づいて分類することがあります。
 ※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与したものです。
 ※繰上償還日は繰上償還可能日(初回コール日)を記載しています。
 ※組入比率は純資産総額に対する比率です。
 ※当資料に記載された個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

基準日
2024年3月29日

ポートフォリオの状況 - Portfolio

06. (ご参考) 利回り比較



06. (ご参考) 利回り比較

※当ファンド：マザーファンドの最終利回りを記載しています。マザーファンドには信託報酬等の費用はかかりませんが、マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド（3か月決算型）／（年1回決算型）には信託報酬等の費用がかかります。

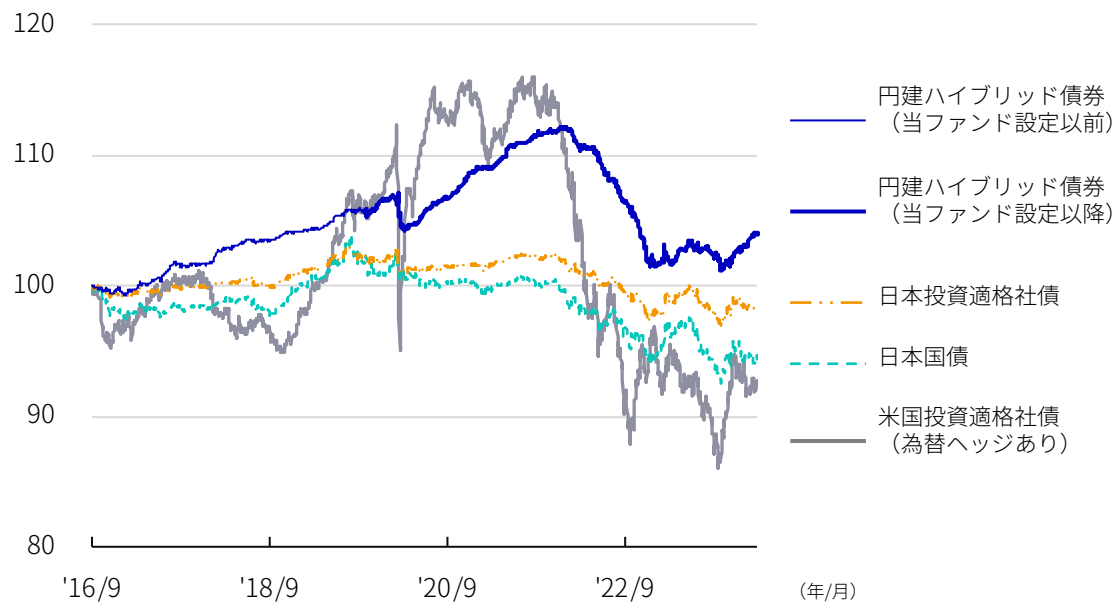
※日本国債：ブルームバーグ算出の日本ジェネリック10年国債、日本投資適格社債：NOMURA-BPI/Extended事業債(7-11年)、米国国債：ブルームバーグ算出の米国ジェネリック10年国債、米国投資適格社債：ブルームバーグ米国社債インデックス(7-10年)

※為替ヘッジコストは日本円と米ドルの1か月先渡為替レートおよびスポットレートを適用し、年率換算して算出しています。為替ヘッジコストは長期で固定されるものではなく、市場環境等により変動します。

※各資産は特徴やリスク等が異なるため、利回りのみをもって一概に比較できるものではありません。

※左記は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

07. (ご参考) 円建ハイブリッド債券のパフォーマンス (2016年9月末～2024年3月末/日次)



07. (ご参考) 円建ハイブリッド債券のパフォーマンス

※円建ハイブリッド債券：2016年9月30日から2019年10月25日までの期間は、当社日本債券運用チームの代表口座が保有する円建ハイブリッド債券部分のみを抽出し、一定の条件のもとでシミュレーションしたもので当ファンドと投資方針・プロセスは異なります。取引コストや税金等は考慮しておらず、シミュレーション結果は将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。当ファンド設定日以降はマザーファンドの基準価額（報酬等控除前）を使用して計算しています。

※日本国債：NOMURA-BPI国債、日本投資適格社債：NOMURA-BPI/Extended事業債、米国投資適格社債：ブルームバーグ米国社債インデックス（円ヘッジ）

※各指数は代表口座で円建ハイブリッド債券への投資を開始した2016年9月30日を100として指数化しています。

*1 年率リスクは日次リターンの標準偏差を年率換算したものです。

*2 リスク（標準偏差）1単位当たりのリターンを示すものです。

	①年率 リターン	②年率 リスク*1	①÷②*2
円建ハイブリッド債券	0.5%	1.4%	0.4
日本国債	-0.8%	2.4%	-0.3
日本投資適格社債	-0.2%	1.5%	-0.1
米国投資適格社債 (為替ヘッジあり)	-1.0%	6.3%	-0.2

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成
最終頁の『ご留意いただきたい事項』を必ずご確認ください。

※当ページのデータは過去の実績であり、将来の市場動向、および当ファンドの運用成果を示唆または保証するものではありません。

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

基準日
2024年3月29日

ポートフォリオの状況 - Portfolio

08. (ご参考) Markit iTraxx Japan 指数 CDS 5年の推移
(2021年12月末～2024年3月末/日次)



2024年2月29日	52.4 bps
2024年3月29日	44.9 bps
騰落率	-14.4%

08. (ご参考) Markit iTraxx Japan 指数 CDS 5年の推移

※CDSは、企業の信用リスクに対し保険のような役割を果たすデリバティブ取引のことで、企業の信用リスク拡大に伴う債券価格の下落リスクをヘッジするためなどに利用されます。

※1bpsは、0.01%を意味します。

09. (ご参考) OISレート (10年) と日本10年国債利回りの推移
(2021年12月末～2024年3月末/日次)



	OISレート (10年)	日本10年国債利回り
2024年2月29日	0.87%	0.71%
2024年3月29日	0.84%	0.73%
変動幅	-0.03%	0.02%

09. (ご参考) OISレート (10年) と日本10年国債利回りの推移

※OIS (オーバーナイト・インデックス・スワップ) は、固定金利と変動金利 (一定期間のオーバーナイト無担保コールレート) を交換するスワップ取引で、将来の金利上昇に伴う債券価格の下落リスクをヘッジするためなどに利用されます。

一般的にOISレートはハイブリッド債券の価格算出にあたっての基準となる金利とされています。

※OISレート (10年) : 日本円スワップOIS (10年)、日本10年国債利回り: ブルームバーグ算出の日本ジェネリック10年国債

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

運用担当者コメント - Comment

長藤 徹志

債券運用部長

運用経験年数：28年超



投資環境

金利は上昇、クレジット・スプレッドは縮小傾向

日本の新発10年国債利回りは、日銀がマイナス金利政策の解除やYCCの撤廃を決定する中、前月末の+0.71%から当月末は+0.73%へと上昇しました。

円建ハイブリッド債券市場では、クレジット・スプレッドは概ね縮小傾向で推移し、特に楽天グループ、損害保険ジャパンが縮小しました。また、三菱UFJフィナンシャル・グループがAT1債を発行し、底堅い需要が集まりました。

運用状況

クレジット・スプレッドの縮小等がプラス寄与

円ハイブリッド債券インカム・マザーファンドでは、高いキャッシュ比率とCDS（クレジット・デフォルト・スワップ）取引を活用したヘッジポジションを継続し、景気循環型やボラティリティ（価格変動性）の高い銘柄の比率を引き下げる等、保守的なポートフォリオを維持しました。

3月末における当マザーファンドの最終利回りは2.23%となりました。年限については中期から長期ゾーンを中心に保有するとともに、OIS（オーバーナイト・インデックス・スワップ）取引と長期国債先物の売建てにより、全体で3.8年程度のデュレーションとしました。

当マザーファンドの3月のパフォーマンスは、保有銘柄のクレジット・スプレッドの縮小等がプラス寄与しました。個別銘柄では楽天グループやパナソニックホールディングスの保有がプラス要因となりました。

今後の見通し

各国の金融政策を注視しながら、保守的な対応を継続

海外主要国が政策金利を高位に維持する中でも国内の短期金利は低水準にとどまり、ロールダウン効果を得やすい順イールドカーブが継続すると見えています。円ハイブリッド債券インカム・マザーファンドでは、利回りやロールダウン効果の維持向上を図りつつ、保守的なポートフォリオを継続します。業種別には景気循環型や、ノンバンク等の低流動性銘柄は保守的に対応し、金融などのディフェンシブ（景気変動に左右されにくい）銘柄を重視します。銘柄選択にあたっては、クレジット調査を徹底して信用力等に対して割安な銘柄を保有します。同時に、OISや国債先物といったヘッジ手段を活用してデュレーションをコントロールする方針です。

※当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
 ※当資料の作成基準日、および前月の応答日の基準価額には、各月の最終営業日の海外金融市場の動向が反映されていません。
 ※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
 ※個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

基準日
2024年3月29日

クレジット調査部長コメント - Comment

押田 俊輔

クレジット調査部長
調査経験年数：22年超



初回コール日を迎え始める
事業会社発行のハイブリッド債券

ハイブリッド債券市場は2024年度以降大きな転換点を迎えると考えます。日本で事業会社によるハイブリッド債券が初めて発行されたのは2015年度でしたが、発行額の増加が顕著となったのは2019年度以降といえます。年度当たりの発行額が1兆円を初めて超えたのが2019年度であり、以降21年度まで3年連続で1.5兆円以上の発行となりました。ハイブリッド債券の初回コール日（発行体による期限前償還が可能となる日）は、多くの場合5年もしくは10年に設定されているため、今後3年間で初回コール日を迎えるハイブリッド債券は年度当たり1兆円程度になると推計されます。

2024年度に初回コールを迎える
ハイブリッド債券

2024年度に初回コール日即将到来するハイブリッド債券の発行体は、サントリーホールディングス、日本製鉄、大和ハウス工業、武田薬品工業、住友化学などです。ハイブリッド債券の発行体は知名度の高い日本の大手企業で、信用格付も高位のものが多いと言えます。ハイブリッド債券固有のリスクとして、初回コール日に発行体が早期償還を選択しない、いわゆる「コール・スキップ」というものがあります。しかし、日本の公募ハイブリッド債券市場においては、こうした「コール・スキップ」が発生

したケースは現時点ではありません。しかし、個々のハイブリッド債券を評価する上では、「コール・スキップ」といったテールリスクの可能性を視野に入れて調査を進める必要があり、当社では各銘柄について「コールの蓋然性評価」を実施しています。

当社のコールの蓋然性評価手法

ハイブリッド債券の評価を行う上で、当ファンドの運用プロセスでは投資先銘柄について「コールの蓋然性評価」を実施しています。同評価は5つの大項目（目的、形式的要件、資本性の検討、経済性の検討、経営の投資家保護姿勢）と5つの大項目に紐づく合計22の小項目で構成されています。

上述の通り、これまでの日本の公募ハイブリッド債券市場では「コール・スキップ」が発生したことはありませんが、海外市場において発生した「コール・スキップ」事案などを参考にし、分析精度を高める取り組みを行っています。昨年発生したクレディ・スイスのAT1債（永久劣後債）の無価値化など、海外発行体のハイブリッド債券において発生したクレジットイベントは「他山の石」とし、当社のクレジット調査力を高めていく方針です。

※債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与したものです。
※当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
※当資料の作成基準日、および前月の応答日の基準価額には、各月の最終営業日の海外金融市場の動向が反映されていません。
※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
※個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

(ご参考) 当月の円建ハイブリッド債券の新規発行状況

発行日	発行体	クーポン (%)	繰上償還日	格付け	発行額 (億円)
2024/03/08	三菱UFJフィナンシャル・グループ	1.912	2029/07/15	A	1,370
2024/03/08	三菱UFJフィナンシャル・グループ	2.305	2034/07/15	A	630

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

ファンドの特色

01. 主として相対的に高い利回りが期待できる円建てのハイブリッド債券*に投資します。

- 円ハイブリッド債券インカム・マザーファンド受益証券（以下「マザーファンド」ということがあります。）への投資を通じて、主として日本企業が発行する円建てのハイブリッド債券に投資を行います。
- 円建てのハイブリッド債券を主な投資対象としますが、市場動向等によっては円建ての普通社債、日本国債等に投資する場合があります。

※市場環境等により、純資産総額の30%を上限として日本企業が発行する外貨建てのハイブリッド債券に投資する場合があります。その際は、実質的に円建てとなるように為替ヘッジを行います。

※金利変動リスクや信用リスクを抑制するため、デリバティブ取引を利用する場合があります。

*ハイブリッド債券とは、債券（負債）と株式（資本）の双方の特徴を有する債券で、資金調達のほか自己資本比率を向上させること等を目的として発行されるものです。

発行体が法的整理や破綻処理等に至った際の債務の弁済順位が、一般の債権者よりも劣後することから劣後債とも呼ばれます。

普通社債と比べても債務の弁済順位が劣るため、通常は同じ発行体が発行する普通社債と比べて格付けが低くなる一方で、利回りは相対的に高くなります。

02. 原則として、投資するハイブリッド債券の格付けは投資適格以上とします。

- ハイブリッド債券の格付けは、取得時においてBBB格付け相当以上（R&I、JCR、S&PのいずれかでBBB-以上またはMoody'sでBaa3以上）とします。

03. 決算頻度が異なる「3ヵ月決算型」と「年1回決算型」からお選びいただけます。

< 3ヵ月決算型 >

毎年1,4,7,10月の各25日（休業日の場合は翌営業日とします。）に決算を行い、利子・配当等収益を中心に安定した分配をめざします。

< 年1回決算型 >

毎年10月25日（休業日の場合は翌営業日とします。）に決算を行い、信託財産の成長を重視して分配金額を決定します。

将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。

※ 資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

マニライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

投資リスク（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認ください。）

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンドを通じて値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。投資信託は預貯金と異なり、投資元本は保証されているものではありません。また、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。ファンドの運用による利益および損失は、すべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。

主な変動要因

金利変動リスク

公社債等の価格は、金利変動の影響を受け変動します。一般的に金利が上昇した場合には公社債等の価格は下落します。組入公社債等の価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

信用リスク

公社債等の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。発行体が債務不履行を発生させた場合、またはその可能性が予想される場合には、公社債等の価格は下落します。また、投資している有価証券等の発行企業の倒産、財務状況または信用状況が悪化した場合、もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等の影響を受け、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

ハイブリッド債券固有のリスク

一般的に、ハイブリッド債券は普通社債等に比べて市場規模や取引量が小さく、流動性が低いため、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

[弁済の劣後]

一般的に、ハイブリッド債券の法的弁済順位は普通社債に劣後します。したがって、発行体が倒産等となった場合、他の優先する債権が全額支払われない限り、ハイブリッド債券は元利金の支払を受けられません。また、一般的に普通社債と比較して低い格付けが格付機関により付与されています。

[繰上償還の延期]

一般的に、ハイブリッド債券には繰上償還（コール）条項が設定されており、繰上償還の実施は発行体が決定することとなっています。予定された期日に繰上償還が実施されない場合、あるいは実施されないと見込まれる場合には、当該ハイブリッド債券の価格が大きく下落することがあります。

[利息の繰延べまたは停止]

ハイブリッド債券には利息の支払繰延条項を有するものがあり、発行体の財務状況や収益の悪化等により、利息の支払いが繰延べまたは停止される可能性があります。

[元本削減または株式転換]

一部のハイブリッド債券には、経営破綻や監督当局により実質的に破綻していると認定された場合、発行体の自己資本比率が一定基準を下回った場合等に、元本の一部または全部が削減されたり、強制的に株式に転換されるものがあります。それらが実施された場合には損失が一旦確定し、ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。なお、普通株式に転換された場合には、株価変動リスクを負うこととなります。

特定業種への集中投資リスク

当ファンドは、実質的に特定の業種に関連する企業が発行するハイブリッド債券を投資対象とする場合があるため、幅広い業種に分散投資を行うファンドと比較して基準価額の変動が大きくなる可能性があります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下で取引を行えない、または取引が不可能となる場合は、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

為替変動リスク

組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、円と投資対象通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。なお、為替ヘッジを行う場合、円金利が当該外貨の金利より低い場合には、その金利差相当分のコストがかかります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することとなります。また、分配金水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

マニライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

お申込みメモ（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認下さい。）

購入単位	販売会社が定める単位とします。（詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。）
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が指定する期日までにお申込みの販売会社にお支払い下さい。
換金単位	販売会社が定める単位とします。（詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。）
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金申込不可日	●ニューヨークの銀行休業日 ●ロンドンの銀行休業日 ※申込不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口換金については、委託会社の判断により換金金額や換金受付時間に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品取引所等の取引停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	原則として、無期限です。（2019年10月25日設定）
繰上償還	各ファンドにつき信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合、信託終了前に信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、委託会社の判断により繰上償還を行う場合があります。
決算日	<3ヵ月決算型> 毎年1、4、7、10月の各25日（休業日の場合は翌営業日）とします。 <年1回決算型> 毎年10月25日（休業日の場合は翌営業日）とします。
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配額は、委託会社が基準価額の水準・市況動向等を勘案して決定します。（販売会社によっては分配金の再投資が可能です。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。） ※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。 ※分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

※その他の事項については、投資信託説明書（交付目論見書）の「手続・手数料等」をご覧ください。

ファンドの費用（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認下さい。）

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、 2.2% (税抜2.0%) を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	毎日のファンドの純資産総額に 年率0.594～0.770% (税抜0.54～0.70%) を乗じて得た額とします。				
	<運用管理費用（信託報酬）の配分（税抜）> 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率				
		新発10年固定利付国債の利回り	0.5%未満の場合	0.5%以上 1%未満の場合	1%以上の場合
	委託会社	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価	0.26%	0.30%	0.34%
	販売会社	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価	0.26%	0.30%	0.34%
	受託会社	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価	0.02%	0.02%	0.02%
	合計		0.54%	0.62%	0.70%
その他の費用・手数料	法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して 年率0.2% (税込) を上限として合理的に見積もった額が毎日計上され、ファンドから支払われます。組入有価証券等の売買にかかる売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからご負担いただきます。これらの費用は、運用状況、保有期間等により変動するため、事前に料率、上限額等を記載することができません。				

※ファンドの費用の合計額については、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に合計額または上限額あるいは計算方法を記載できません。
※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

委託会社、その他の関係法人

委託会社	マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社 [設定・運用等] 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第433号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 [信託財産の保管および管理等]
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。[募集・換金の取扱い・目論見書・運用報告書の交付等] ※目論見書は販売会社でお受け取りいただけます。

販売会社一覧

販売会社名	登録番号等	加入協会				取扱コース	
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	3カ月決算型	年1回決算型
株式会社十六銀行	登録金融機関 東海財務局長 (登金) 第7号	○		○			○
株式会社千葉銀行	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第39号	○		○		○	○
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長 (登金) 第3号	○		○		○	○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第54号	○		○	○	○	○
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第5号	○		○	○	○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第33号	○	○	○		○	○
株式会社横浜銀行	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第36号	○		○		○	○
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長 (金商) 第15号	○	○	○		○	○
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第2251号	○	○	○	○	○	○
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第53号	○	○	○	○	○	○
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第108号	○	○	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長 (金商) 第140号	○	○	○	○	○	○
野村証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第1977号	○				○	○
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第1号	○				○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第2336号	○	○	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○	○	○
株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第5号	○		○	○	○	○

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。

マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド

基準日
2024年3月29日

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金等や保険契約と異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、預貯金と異なり元本や利回りの保証はありません。銀行などの登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 本資料の一部または全部について当社の事前許可なく転用・複製その他一切の行為を行うことを禁止させていただきます。
- 当資料に記載された個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社がこれらの銘柄について取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。
- 当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

三井住友銀行におけるお申込みについて

《購入単位》

三井住友銀行における購入単位は、以下の通りとなります。

1万円以上1円単位

※投信自動積立の場合は1万円以上1千円単位、スイッチングの場合は1円以上1円単位

《手数料等の概要》

投資信託は、申込時・換金時に直接ご負担いただく費用と、信託財産から間接的にご負担いただく費用の合計額がかかります。

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	ご購入代金に応じて、下記の手数料率をご購入金額(ご購入価額(1口当たり)×ご購入口数)に乗じて得た額		
	購入代金	1億円未満	1億円以上
	手数料率	0.55%(税抜0.5%)	なし
信託財産留保額	ありません。		

※スイッチング手数料はかかりません。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	毎日のファンドの純資産総額に 年率0.594~0.770%(税抜0.54~0.70%) を乗じて得た額とします。				
	＜運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)＞ 信託報酬=運用期間中の基準価額×信託報酬率				
	新発10年固定利付国債の利回り		0.5%未満 の場合	0.5%以上 1%未満の場合	1%以上 の場合
	委託会社:	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価	0.26%	0.30%	0.34%
	販売会社:	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価	0.26%	0.30%	0.34%
受託会社:	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価	0.02%	0.02%	0.02%	
合計		0.54%	0.62%	0.70%	
その他の費用・ 手数料	法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して 年率0.2%(税込) を上限として合理的に見積もった額が毎日計上され、ファンドから支払われます。組入る有価証券等の売買にかかる売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからご負担いただけます。これらの費用は、運用状況、保有期間等により変動するため、事前に料率、上限額等を記載することができません。				

※ファンドの費用の合計額については、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に合計額または上限額あるいは計算方法を記載できません。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認下さい。

【投資信託に関する留意点】

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。これらは三井住友銀行本支店等にご用意しています。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 三井住友銀行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 三井住友銀行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は運用会社が行います。



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会